



こうべ森の学校だより

No.64

2015年5・6月号

発行人：こうべ森の学校 編集委員会

発行所：神戸市北区山田町下谷上中一里山 4-1

神戸市森林整備事務所内

Tel: 078-371-5937 Fax: 078-371-1087

平成 27 年度こうべ森の学校各グループ活動計画

森の保全グループ

平成 27 年度の活動計画についてお知らせします。

- 森の手入れ計画カレンダーは毎月作成し掲示します。
- 例会入山エリアと平日活動エリアとを分離し、次の通り設定します。

例会における入山場所と班分け基準

- 1 区 1 班 終日 (午前・午後) 森の手入れ
- 3 区 2 班 終日と午前のみ森の手入れの混成
- 4 区 3 班 終日と午前のみ森の手入れの混成
- 8 区 4 班 午前のみ森の手入れ
- 8 区 初級者講習・鉈講習
(常緑広葉樹中心の除間伐・ササ刈り)
(美観良い集積)

火・木・土の平日の活動

- 平成 27 年 4 月～6 月
- 4 区の整理 (ササ刈り・間伐・集積)
- 草刈機使用可能になるまで
- 背山 19 区の整備 (ササ刈り・間伐・集積)
(但し、例会の前は、入山区の安全確認・整備)
- 背山整備計画検討
- スタッフ講習会 (安全対策を含む) 計画検討

平成 27 年 7 月～9 月

背山 19 区の整備 (ササ刈り・間伐・集積)
(但し、例会の前は、入山区の安全確認・整備)

随時、参加者提案エリアの手入れ

平成 27 年 10 月～平成 28 年 3 月

中心は背山 19 区・20 区

炭焼き

(但し、例会の前は、入山区の安全確認・整備)

随時、参加者提案エリアの手入れ

<重点取り組み事項>

①例会

- 会員は年度初めの例会で所属班を選択し原則として 1 年間同一班で活動する。
 - 例会では班ごとに手入れエリアを固定し、活動前と活動後の変化を実感できるようにする。
 - 取組の重点をコンパクトで美観良い集積において活動する。
 - 安全な伐倒技術や集積指導は各班が適宜実施する。
- <期初期末及び毎回ビフォー・アフターの写真撮影⇒次回活動の注意点もそれを使う>

②平日活動

スタッフ安全研修の充実 (安全な伐倒集積技術) 2 カ月に 1 回程度⇒内部講師

* ロープと滑車、クサビを使った伐倒方向のコントロール

* 共通装備の使い方 ロープのたたみ方、スリングと滑車の設置、フックのかけ方、安全なけん引方法、フェリングレバー、高枝鋸、クサビ他

* 集積方法 (流出や飛散させない / 美観良い) (次ページに続く)



平成 27 年 5 月 9 日例会時の集合写真

- * 安全なかかり木処理技術
- * 朝礼を安全啓発活動に活用 ヒヤリハットの発掘、ワンポイント安全確認などの励行(ダニ対策/ポイズンリムーバーの使い方を含む)
- ② 桧巻き枯らし(6～7月)、杉葉枯らし(11～12月)など新しい方法のテスト継続
- ③ 樹木の勉強会⇒内部講師
- ④ 安全マニュアル中上級編の編集・改訂

木工工作グループ

<重点取り組み事項>

- 月例会午後のメニュー準備
- 4/29 花のフェスタ・11月森の文化祭等の行事出展物の企画・製作
- 第2火曜日のスタッフ木工研修の継続
- 依頼のあった作品の製作



花のフェスタこうべ 2015

4月29日(水・祝)総合運動公園において、花のフェスタこうべ2015が開催されました。

花と緑豊かな街づくりを進める「花のまち神戸」運動のメイン行事として毎年春に開催され、今回で30回目となります。

こうべ森の学校は木工作品コーナーとアルプホルンコーナーを出展しました。

なお、木工作品の売り上げは東日本大震災で失われた松林の再生に取り組む市民団体「ゆりりん愛護会」の支援に使わせていただきました。



開始前のミーティング



展示販売コーナー



木工作品コーナー



アルプホルンコーナー

六甲山サミット開催のご案内

阪神・淡路大震災から、早くも20年の年月が経過しました。昨年の集中豪雨で六甲山のいたるところで土砂崩れが発生しました。また広島市における災害も記憶に新しいところです。土砂災害に強い安全なまちづくりについて、パネルディスカッション・意見交換を行います。ぜひご参加ください。

開催日時 平成27年6月28日(日)13:00～16:00

場所 神戸大学 出光佐三記念六甲台講堂

参加申し込み 0120-677-882 までお問い合わせください。



神戸市消防学校生体験入学



消防学校生 47 名集合



受け口切り作業



追い口切り作業

をそれぞれ6チーム編成で行いました。初めて手道具を持つ参加者が多く、慣れない作業に悪戦苦闘しながら

5月21日、昨年に続き、神戸市消防学校初任教育生(18～28歳)47名が、ログハウス前に集合しました。この日は晴天で、朝は少し涼しいぐらいに空気もピンッと張りつめた絶好の作業日和でした。みなさん緊張した面持ちながら、言葉使いやきびきびとした動きから、森学スタッフも自然と背筋を伸ばすような仕草をとりました。

各班に分かれ入念な打合せの後、月例会で1班が入っている人工林の伐倒と“桜の園”

周りの低木・下草刈り

らも若さでカバーしながら、大きな声が森に響き渡っていました。伐倒のチームでは、“かかり木”のハプニングが生じ、急きょ“かかり木”処理の課外授業に移る一コマもありました。“桜の園”では、予定の1/3程が残り、通常活動で引き続き手入れをする予定です。

共に昼食を摂ったり、体験終了後の雑談の中では、その世代の会話や訓練(研修)中での本音も垣間見えたりして、和やかなひと時もありました。

消防学校からは、来年以降も続けたいとの意向で、森学としても森の作業を知っていただくためにも、受け入れを続けたいものです。

(記事と写真は木下さんに提供していただきました)



玉切り作業



昼食時の和やかなひと時



研修を終えて和む

伊藤ハム課外授業

5月31日(日)課外授業が開催されました。「こうべ森の学校」発足当初から多大な支援と貢献をいただいている伊藤ハム株式会社の社員と家族53名に、ご参加いただきました。

例会と同様、午前中は森の手入れをしていただきました。

初めて間伐を体験される方もおられましたので、安全を優先して基礎から学んでいただきました。汗をかき苦勞して1本の木を無事伐木できたときの達成感を感じられたことと思います。

午後から森の手入れ、自然観察、木工製作の班別行動となりました。

木工班は、ベルトサンダーと紙やすりを使って、「しゃもじ」の製作を行いました。

綺麗に仕上がった作品を記念に持ち帰っていただきました。



風楽山荘前にて集合写真



間伐体験



木工作品体験

六甲の花散歩 (その 39) — アカメガシワ (赤芽柏)

トウダイグサ科 (アカメガシワ属) 神戸市立森林植物園 福本市好



アカメガシワの樹冠

ツギ、コアジサイ、ヤマアジサイなどアジサイのなかまです。他にもブナ科のシノキやクリの湧き立つようなクリーム色の穂状花序は樹冠を覆いよく目立ちます。そして独特の匂いも漂わせています。それ以外に特に人気



アカメガシワの幹

よい機会だと思うのです。



アカメガシワの雄花穂

前、「こうべ森の学校だより」にすでに紹介していますのでバックファイルでご覧ください。

前置きを長々と書きましたが、今回は『アカメガシワ』について少し紹介いたします。この木は裸地や明るい林



雄花穂アップ

梅雨の頃、「六甲の山野にどんな花が見られますか？」との問い合わせがあると、まず思い浮かぶ植物はウツギ(ウノハナ)、タニウツギ、ヤブウツギなどウツギ類やコガクウ

のある植物として「ササユリに出会いたい！」との問い合わせも多くなり、今年も早やこの季節が来たのだと感じます。

季節の訪れは花だけでなく夏鳥の声や昆虫、カエルなどの出現によって感じられます。また、年によって変動がありますがそれも自然の営みだと感じる

梅雨も半ばになると、ヤマボウシやクマノミズキの花が霧の中に白く浮かぶ、幻想的な景観に出会うこともあります。(これら2つの植物は以前、「こうべ森の学校だより」にすでに紹介していますのでバックファイルでご覧ください。)

前、「こうべ森の学校だより」にすでに紹介していますのでバックファイルでご覧ください。前置きを長々と書きましたが、今回は『アカメガシワ』について少し紹介いたします。この木は裸地や明るい林縁部などでヌルデなどと共にいち早く生える先駆植物(パイオニア植物ともいう)です。他の植物に比べ、光合成能力が高く生長が早いのが特徴です。

春先から芽吹く新芽は特に赤くてよく目立つので、「赤芽」とこの名が付いたと頷けます。カシワとはブナ科のカシワの葉のように広い葉っぱをつけるので、合わせて「アカメガシワ」とよぶ語源説が有力です>(*参考までにカシワは他の植物名にもよく付く名ですが、一説では「炊(かし)葉(きは)」の意で広い葉で食物を盛ったり、包んだりして使ったことから出た名前のようにです。)



アカメガシワの雌花穂

数本のアカメガシワの花を見てみると、

木によって花序に違いがあります。これは雌の木と雄の木があるためです。小さな花の集まりの円錐花序ですが、どちらかと言えば雄花花序の方が可愛らしくて、ふぁーとした感じです。雌花花序には秋にたくさんの実ができますが、受粉するには昆虫が関わり、種子の散布は多くの野鳥たちが担っています。



実生苗

アカメガシワがこのような生活史(営み)を営々と子孫を繋いでいくために行っていることは、一見あたりまえのことのように思えますが、取り巻く環境の変化や自然の摂理に任せながらも強かに生きている姿なのです。これからもそれぞれの植物が季節ごとに見せてくれる装いに気をとめて観ていきたいと思います。



若い果実

(参考まで) アカメガシワは古くから胃腸薬など民間薬として利用されてきました。また、この種のトウダイグサ科の植物は近年、抗がん剤の発見など、有用植物として注目されている植物の一つのようです。



赤い新芽

六甲の野鳥撮影の記録 (その8)

日本野鳥の会会員 村瀬 眞一郎
全日本写真連盟会員

今回は、池や川でよく見られる水辺の鳥について紹介します。六甲山系やその近辺では、烏原貯水池、小野市の鴨池や三田市の有馬富士公園（福島大池）へ、冬場に行けば多くの種類を見ることができます。カモ目カモ科の野鳥の雌雄はかなり異なっていますので、雄の写真だけを載せています。山野の鳥と違って、水面に浮かんだり、ゆっくり進んだりしますので、写真は撮り易いです。

[マガモ]

雄の頭は緑色、体は灰色、胸は茶色、嘴は黄色、足はオレンジ色をしています。雌は全体が茶色です。グェツ、グェツと鳴きます。カモ類の中ではよく鳴きます。



マガモ

[コガモ]

雄の頭は茶色、目の周辺は緑色、体は灰色、嘴と足は黒色をしています。雌は全体が褐色です。雄はピリッピリッ、雌はクックツと鳴きます。



コガモ

[ヒドリガモ]

雄の頭は茶色、頭頂部は白色、体は灰色、嘴と足は鉛色をしています。雌は全体が濃い褐色です。雄はピューンピューン、雌はグワーグワーと鳴きます。



ヒドリガモ

[オナガガモ]

雄の頭は黒褐色、胸は白色、後頭部は灰色の縦線、体は灰色、嘴は青灰色をしています。雌は全体が褐色です。雄はプリップ



オナガガモ

リッ、雌はクワックワツと鳴きます。

[オシドリ]

雄は美しい複雑な模様をしていますので、すぐにわかります。雌は全身が灰褐色です。雄はケツケツ、雌はクワックワツと鳴きます。



オシドリ

仲の良い夫婦は「おしどり夫婦」と言いますが、実際のオシドリは、毎年相手を変えているそうです。

[キンクロハジロ]

雄の脇と腹は白色、体は黒色、嘴は青灰色をしています。雌は全体が黒褐色です。雄はキュッキュツ、雌はグァグァツと鳴きます。



キンクロハジロ

[オオバン]

カモ類に似ていますが、ツル目クイナ科の鳥です。雌雄同色です。頭部は黒色、体は濃い灰色、嘴は白色をしています。ひれの付いた足を持っています。キョンキョンと鳴きます。



オオバン

[カイツブリ]

カモ類に似ていますが、カイツブリ目カイツブリ科の鳥です。雌雄同色です。年中みることができます。全身、冬は薄い褐色、夏は濃い褐色になります。キュルルルと鳴きます。水に潜って魚などを捕ります。一度潜ると何処から顔を出すか予想が難しいです。



カイツブリ

シリーズ ボランティア活動 ⑥

私のボランティア実践から

東郷 賢治

はじめに

こうべ森の学校だより63号でひょうごボランタリープラザの高橋守男氏がプラザ10年を機に後進に道を譲られることを知りました。県下の多くの災害ボランティアの要役としてご指導に当たってこられたことは周知のことと存じますが、惜しまれてなりません。その一文の中でも高橋氏は「絆」と言う言葉を使っておられますが、私はボランティア活動の原点を示す言葉ではないかとかねがね思っていました。

1996年退職を機に私にボランティアの途を歩もうとさせたのは他でもない障がいのある教え子たちでした。その頃 彼等と一緒にあゆみ、ともに模索することが私に必要なんだと感じていました。長年に及ぶ教育実践の中で未解決のまま引きずっている課題がいくつも見えてきたからです。私に何をどれだけできるかは全く未知数でしたが、ボランティアとしてこれからも彼等に関わっていかうと考えました。それが高橋氏が述べられる「心の支援」「寄り添う支援」の第一歩であったと思っています。また、障がいのある教え子たちとの「絆」であったと言えましょう。

ネパールに学校を
今年4月25日の大地震でネパールへの関心が一度に高まりました。



どんな国か？世界最高峰エベレストがある。

ヒマラヤ山脈で8000m級の高い山がいくつもある。世界遺産の寺院で有名。等など。どれも正解です。とっても素晴らしい氷の山と深い氷河に囲まれ、ヒンドゥー教やチベット仏教の信仰に熱く、人々は「ナマステ」と手を合わせて挨拶します。素朴でちょっと恥ずかしがり屋さんです。



とっても貧しい国です。地下資源にはまったくと言っていいほど恵まれていません。気候は南部でこそインドに接しており、象も鱶もいます。農業も盛んです。が、それはごく限られた地域でしかありません。国土の大部分は高山に区切られた谷筋の広がる段々畑での稲作が中心ですが、気候は厳しく、水が冷たいため収穫量には恵まれていません。トウモロコシや粟を栽培しているのも見かけました。畑では女性や子どもを多く見かけます。就学率は小学生で男79%女60%

中学生で男49%女25%です。制度としては6歳から就学し、5・3・2年制が保証されていますが、義務教育ではありません。成長の途中で働き手として農作業や家事の労働力に期待されている現状に問題があるようです。



私は1960年代前半 神戸大山岳部に所属していました。奨学金を奨岳金と書き換える程熱心な部員でした。しかし、当時ネパールへは日本山岳会が組織したマナスル登山隊しか行けなかった時代です。でも何年後になると許可さえ得れば比較的自由にヒマラヤに挑戦できるようになりました。神戸大も山岳会の組織を再編して挑戦し始めました。ネパールや中国との間にパイプを持てるようになり、現地に山仲間が出来ました。

1997年山岳会員を中心に友人・知人に呼びかけ約400人の会員でHNA(ヘルプネパールアソシエーション)を立ち上げました。会費年額3000円。寄付も含めて年間収入は120万~130万円で、毎年 小学校一校建設又は改修を目標に活動を続けています。

土レンガの壁とスレートやトタンの屋根、明りとり程度のガラス窓。粗末な黒板や木の机椅子で3~4教室と言った所が平均的な学校施設です。我国の学校の概念では想像し難いものですが、現地の公的な資金ではそれさえも難しいのがネパールの実情です。

HNAはこれまでに20校園(一部幼稚園)や1保健所の建設を支援してきました。これと並行して恵まれない家庭環境にある子どもへ就学援助を目的とした里親支援や野生動物の調査研究に取り組む団体「バイソン」への支援・子ども達へ手作りバッグや学用品やサッカーボールなどの贈呈などなど私達が手近で出来ることを手分けしながら支援の内容を充実させてきました。

多くの会員は会費による支援参加ですが、毎年秋の学校完成式(贈呈式)に参加してネパールの子どもと直接触れ合いたいという希望者を募って現地へ赴きます。完成式の日にはまるで村祭りのようです。村長さんはじめ教育委員と思しき方々などからは式辞や感謝の言葉が次々と述べられ、まさに老若男女大勢の村民からの熱烈歓迎を受けます。マリーゴールドの首飾りを掛けてもらい、歌や民族ダンスが披露されます。

私たちも日本の歌や紙芝居などを準備しており、身振り手



振り子ども達と交流します。私どもボランティアも自然と笑みがこぼれます。今日までの活動の意義が実感として分かってきます。立派な民間交流であり、国際親善です。

これまではセレモニーの後、世界遺産の寺院の見学やトレッキングを楽しむと言う付録がついていましたが、それも何年間かは地震の後遺症で出来そうにありません。ネパールにとっても世界遺産の寺院など貴重な観光資源や自分たちの家屋も壊滅的に崩壊し、農山村と都市を結ぶ交通網は寸断されて復旧の目途も立っていません。ネパールは観光立国を目指していただけに大切な収入源が絶たれてしまって大きな痛手です。生活優先で学校建設どころでは無い

も知れません。HNAは過日総会を開き、乏しい情報をもとに検討しましたが、何はともあれ将来を担う子ども達の教育再生へ向けてこれまで関わってきた学校園への実情に応じた支援を継続しようと決議しました。



シリーズ 私のヒヤリハット ④

こうべ森の学校安全衛生委員会では、会員の皆さんからヒヤリハット体験談を募集しています。ちょっとした不注意から大きな事故に至る場合があります。お互いに情報を共有して、森の活動の安全に繋げていきましょう。

ナタガマを使って枝払い

村上 文敏

私が「ヒヤリ・ハット」の言葉を聞くのは、在職中以来のことです。森学に入社して、数か月後にナタガマ「以下、ナタ」の使い方を先輩から教わりました。

最近、伐倒木の枝払いをしている際に、2度「ヒヤリ・ハット」するような出来事がありました。

1. 幹を持つ手のすぐ近くにナタを振り入れたこと

少し位置がずれていれば、持っている手指を直撃するところですが。安全マニュアルでは、「持つ手から30cm以内の枝払いには、ナタを使わない」となっています。（※禁止事項）

2. ナタを振り下ろした時に、刃先が自身の足元近くにきたこと

これもひとつ間違えれば、刃先が自身の足を直撃するところですが。安全マニュアルでは、

①伐倒木の枝払いでは、

- 足とナタの間に幹を入れる



平成24年6月17日に実施した鉋講習会

- 払う枝を自身よりも後ろ側になるよう立位置をとる
- 根元側の枝から刃を入れる
- 刃先の重みを利用して、6割程度の力で切る
- ②片手で持てるような幹や枝の場合では
 - 必ず体とナタとの間に幹を入れる
 - 振り下ろす刃先が、自身の脚・膝にこないような立位置をとる
 - 幹(枝)先を地面につけて安定させる
 - 根元側を持ち、根元側の枝から払う
- ③小指より細く、しなるような枝先にはナタを使わない（※禁止事項）となっています。

ナタを使いだしてから2年程経ち、知らず知らずのうちに慣れの行動になっていたのか、枝払いをすることに気を取られ過ぎていたのか、作業を急ぐことはないのだから、今後はこの苦い経験を思い起こして、丁寧な作業を心掛けたいものです。



平成24年7月14日に実施した鉋講習会
〈会員のみなさんへ〉

森学では、森の手入れを5回以上経験の希望者に、月例会にてナタ使用の講習を行い、受講終了者にナタを使ってもらっています。ただ、ナタの使い方をひとつ間違えれば大きな事故や怪我につながりますので、時々安全マニュアルを振り返り、遵守していただきますよう、お願いします。

■前々回・前回の報告

日付	参加者	司会	午後・森の手入れ	木工工作	自然観察	苗づくり
4月19日(日)	35名	小林さん	15名	17名	実施せず	実施せず
5月9日(土)	46名	原口さん	27名	10名	3名	4名

■東お多福山再生プロジェクト

5月20日(水)お多福山における平成27年度第2回の活動がありました。コドラート内の植生調査、ロープの張り替え、前回降雨のため出来なかったエリアの全面的な刈り取りを行いました。

今後の活動予定

7月22日(水) 10月7日(水)コドラート刈り取り

12月16日(水) ネザサ等の全面刈り取り



お知らせ・掲示板

♠バスの運行

こうべ森の学校月例会には神戸市バス25系統(三宮～森林植物園)をご利用ください。三宮の乗り場はミント神戸1階三宮バスターミナルM4停留所、9時20分発のバスに乗れば、例会に間に合います。

運行日は4月～11月の土日祝日のみで、平日の運行はありませんので、ご注意ください。

また阪急バス61系統(神戸駅南口～鈴蘭台)は通年運行しております。神戸駅南口バス停9時発のバスに乗り、水源池バス停で下車して徒歩25分で、こうべ森の学校「風楽山荘」に到着します。

平成26年度から再度公園駐車場が無料開放されています。こちらもご利用ください。

♠摩耶の森クラブ

次回の月例会の開催予定日は(変更の可能性あり)

7月20日(月・祝) 活動場所は摩耶山掬星台

活動内容 キノコ観察会+森の手入れ実習

(問い合わせは、神戸市森林整備事務所に)

♠こうべ森の小学校 & 森のようちえん

次回開催予定日は 7月20日(月・祝)

(問い合わせは、神戸市森林整備事務所に)

♠ボランティア保険に加入していますか

森の手入れの作業中の事故に備えて「兵庫県ボランティア・市民活動災害共済保険」への加入手続きをされていますか。掛け金は500円の負担で補償期間は4月1日から翌年3月31日までです。受付窓口はお住まいの市区町社会福祉協議会です。

会員活動の開催予定日

・月例会 7月11日(土)・8月16日(日)

午前中は全員で森の手入れを行います。午後は自然観察・木工・苗作り・森の手入れから選択していただきます。

・上記以外の火・木・土曜日にも活動しています。

「こうべ森の学校」は、発足当初から物心両面にわたり伊藤ハム株式会社の社会貢献活動の支援を受けて運営されています。

編集後記



6月と云えば梅雨。雨にしつとりと濡れたアジサイは情緒あって、なかなか味わい深いものがあります。

再度公園では布引の滝に行く道端にひっそりと咲いています。

…だが、残念なことに近年地球温暖化の影響で、昔のしとしと降る梅雨のイメージが崩れ、ゲリラ豪雨等が多発しています。

これは日本だけでなく、世界的な規模で気候変動が起こっています。

今まで起こったことがない所で集中豪雨が発生し、洪水

になったり、ある所では干ばつになったり、季節外れの大雪になったりしています。

又、5月に島サミットが日本で行われましたが、北極圏の氷が溶け、水位が上がり、南の島では水没が懸念されています。

世界各国の関係者が集って、温暖化防止について話し合っていますが、明確な対策が立てられていません。何もせずにこのまま温暖化が進むと思うと、ぞっとします。

小さなことでも、自分達でやれることはやりましょう。

再度公園の森を守ることは緑を豊かにし、地球温暖化防止に少しでも貢献してしていると言えるのではないのでしょうか。

(貧者の一灯かもしれませんが?!??)

中里勲